

令和3年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 基本方針、育成する人物像、育成する資質・能力

<p>基本方針</p> <p>ア 人への信頼と愛情を基盤とした、誠実な社会人に必要な知、徳、体を調和して高めるとともに、優れた実践力を持つ個性を育成する。</p> <p>イ 自己の特性を發揮するとともに、他人への思いやりの心をもって、社会の平和及び文化の向上に資する人物を育成する。</p> <p>ウ そのため、創立以来118年間受け継いできた歴史と伝統を継承するとともに、時代の進展や社会の発展に対応する校風を樹立する。</p> <p>育成する人物像</p> <p>グローバル・リーダー＝世界（グローバル）や地域（ローカル）の課題を自分の課題とし、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物</p> <p>育成する資質・能力</p> <p>ア 確かな学力 (7) 読解力（知識・技能を身に付け、ありのままに理解する力） (1) 思考力（知識・技能を活用し、論理的・批判的に考え、判断する力） (7) 協働力（貢献の意志を持ち、多様な人々とともに活動する力） (2) 探究力（自ら問いを發し、調査・研究を深め、発信する力）</p> <p>イ 豊かな心（校訓） (7) 誠実（偽りのない真心） (1) 克己（己に打ち克つ心） (9) 忠恕（他を思いやる心）</p> <p>ウ 健やかな体 (7) 体力・運動能力 (1) 健康・安全意識</p>
--

2 重点目標

<p>1 県高グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）</p> <p>ア 育成を目指す人物・・・世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（GL）を育成します。</p> <p>イ GLに求められる資質・能力・・・座学のみならず地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心（校訓）と4つの力（読解力、思考力、協働力、探究力）を身に付けます。</p> <p>2 県高カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）</p> <p>GLに求められる3つの心と4つの力を育成するため、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。</p> <p>ア 基本方針・・・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求めめる態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに健やかな身体を養い、生徒が個性や資質・能力に応じた多様な</p> <p>将来の進路を実現できるように教育課程を編成・実施します。</p> <p>イ 「県高 SAKURA Project-X (クロス)」の実施・・・探究活動、理数活動、国際活動、ことば文化活動、自主活動</p>
--

3 自己評価

項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取組	達成状況			取組状況・改善方針		
				取組	昨年度	総合			
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	学力向上の推進	1.指導計画の作成及び観測評価と指導の一体化	B(3.1)	△	B	○新学習指導要領が新入生から導入される事を受け、観測評価と指導の一体化について研修を重ねた。来年度はその検証を行い、見直すことで確立していくことが課題。 ○来年度は探究活動をどのようにキャリアにつなげるか検討を進めたい。		
			2.習熟度別少人数授業（英・数）の実施	B(4)	▽-0.2				
			3.新学習指導要領を踏まえた探究活動の授業	B(3.5)	△				
			4.補習（平常・長期休業中）の実施	B(3.7)	↑0.1				
		国際理解を深める教育	5.英語4技能試験の活用	B(3.9)	±0	B		○海外探究活動や国際交流は、現地での交流は実施できなかったが、台中二などオンライン交流を行う事ができた。	
			6.海外探究活動・海外語学研修の実施	B(3)	↑0.2				
			7.国際交流（姉妹校交流、オンライン活用）	A(4.1)	↑1.4				
		理数教育の充実	8.大学模擬授業、大学フォーラムへの参加	B(3.9)	↑0.4	A			○UGLISの自主的な活動を計画し、コロナ禍の中、スターウッチングなど地域への取組みを実現できている。 ○京都大学への大学フォーラムに参加 ○スプリング8の施設見学を実現
			9.GLISリーダーシップワークの実施	A(4.5)	△				
			10.専門機関講師による科学探究・実験講座	A(4)	△				
	11.校訓に基づいた校風の醸成		B(4)	↑0.3	A				
	人間力の育成	12.生徒会活動の活性化	A(4.4)	↑0.4					
		13.生徒主体の県伊祭（文化祭）	A(4.5)	↑1.5					
		ふるさと意識の醸成	14.地域課題探究の実施	B(3.8)	↑1.2	A			
	15.生徒主体の体育祭・球技大会		A(4.4)	↑0.1					
	「健やかな体」の育成	心・技・体の醸成	16.活動方針に基づいた部活動の実施	A(4.2)	±0	A	○球技大会は感染症対策を考え、3学年それぞれが工夫した球技大会を行った。 ○学校付近の自転車マナーが良い。 ○交差点での安全意識が不十分。 ○夏季休業中のWBGTの周知徹底には改善が必要。		
			17.登下校等の安全確保	A(4)	↑0.3				
		健康教育・安全教育	18.WBGTによる熱中症対策	B(4)	±0				
19.研究授業週間等、授業改善の取組			B(3.9)	↑0.1	B				
教職員の資質・能力の向上	20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.7)	↑0.4						
	21.1人一台端末利用に向けた活用研究	B(3.6)	△						
	22.校務支援システムの運用	A(4.3)	▽-0.1	B					
学校の組織力の強化	23.定時退勤日、ノー会議デーの徹底	C(2.3)	▽-0.3						
	24.情報セキュリティ徹底、情報資産管理	B(3.5)	△						
	家庭と地域による学校と連携した教育の推進	25.校内委員会等の活性化	B(3.6)	↑0.1	B	○ICT機器の利用が急速に高まり、教員の情報セキュリティの管理徹底は必須である。ICT推進委員会が全体に周知した。 ○探究活動の取組みで企業や自治体と新しい試みを実施することができた。			
26.いじめアンケートによる早期発見・対応		A(4.3)	±0						
27.地元企業・自治体・大学等との連携		B(3.6)	↑0.5						
家庭と地域による学校と連携した教育の推進	家庭との協働	28.PTAと連携した一斉メール配信	A(4.2)	↑0.2	A			○オープンハイスクールは時期を他校と別日開催になるように設定した。学校長の挨拶をWebに変更し、生徒による説明・活動披露も好評。 ○中学校への学校説明会が中止となり、全中学校に学校案内を配付。HPやブログを通じて本校の活動を発信した。 ○同窓会、PTAの学校活動への参加と支援は本校の大きな力となっている。	
		29.広報誌「緑樹」の発行	A(4.5)	↑0.1					
		30.HP・ブログ等の発信	A(4.5)	△					
	地域への情報発信	31.生徒主体のオープンハイスクール	A(4.3)	↑0.2					
		32.同窓会・PTAとの参画・協働	A(4.1)	▽-0.1					
		33.学校評議員会、学校評価の改革	A(4.1)	↑0.1					

4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検

5段階で評価したのち、3段階（できている・できていない・わからない）の人数割合を表示。

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標
学習指導	授業実践力・授業改善力	1.学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。
		2.学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。
		3.主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。
		4.評価規準に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。
		5.わかる授業づくりに向けて、ICT機器等を活用することができる。
学級・HR経営	集団を高める力 一人一人の能力を高める力	6.いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その予防・解決に取り組むことができる。
		7.学年・学級目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。
		8.児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドとストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。
チーム体制づくり	協働性・同僚性 組織的対応力	9.保護者や関係機関と連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。
		10.「教職員の勤務時間適正化推進プラン」をもとに、ワーク・ライフ・バランスや勤務時間の適正化を意識しながら、計画的に仕事を進めることができる。
		11.児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。
		12.校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。
資質自律性	自己管理能力・変革力	13.校内の情報を適切に管理し、取り扱うことができる。
		14.学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。
		15.日頃からの、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。
		16.適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。
		17.日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。

5 学校関係者評価（総合）

○全体的に見て、本年度はコロナ禍で様々な制約を受ける中、良く成果を上げられたと思う。「3自己評価」では、多くの項目の達成状況が昨年よりUPしていることから、努力の跡が見受けられる。

○「育成する人物像」については、今の県立伊丹らしさのある良いねらいであると思うとともに、成果も期待でき今後が楽しみである。重点目標の構成はよく練られていると思う。

○「確かな学力」の育成には、「自らの気付き、きっかけ」が大切だと考える。国際の交流や大学での4年間、企業及び施設見学などは、生徒たちに大きな影響を与えるものである。

○発表する課題に対しては自分たちが何故この課題を選択したのか、収集したデータは本当にこれで良いのか、導き出した結論は本当にそれで良いのかデータとの整合性は、自分たちで考える癖がつけば、より充実した物になり、発表の際も「自信」をもって出来ることである。

○県高ポリシーは、いつの時代にも通用する普遍的な内容となっている。

6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
○「学力向上の推進」…難しいことだが「確かな学力」の育成の中で、ここが一番基盤となる部分ではないかと思う。他の2施策とこれとは相互に高め合う関係だと思いが、他の2施策よりも達成状況が低く、かつ昨年度も低いことは気になる。取組「7, 9, 10」については、工夫して良く取り組まれたと評価する。
○生徒自らが、他の生徒たちに「校風」を伝えることは、非常に重要なことです。企業における「企業理念」と同じように、高校という「一つの船」で皆が高校の理念を共有されることは良い事ですし、それが生徒が自分で考え、行動したものであれば大変に評価されるものと思います。
○英語力は重要であるため、A評価に引き上げて欲しい。
○探究フォーラムの生徒の活動や運営を見ても、生徒の成長が良く分かる。
○生徒自らが、他の生徒たちに「校風」を伝えることは、非常に重要なことです。企業における「企業理念」と同じように、高校という「一つの船」で皆が高校の理念を共有されることは良い事ですし、それが生徒が自分で考え、行動したものであれば大変に評価される。
○安全意識が不十分、周知徹底には改善が必要と自ら問題点を把握しているのであれば総合評価もAに疑問が生じる、検討するべきである。課題が見えていることは、次への取り組み、行動計画へと結びつける事が出来るという事です。
○「システム」は作ったが、作った人と、利用する人がしっかりとコミュニケーションをとらないと、いざ運用する際には上手くいかないことがあります。管理者側と利用者側のコミュニケーションを密に願う。
○昨年末より様々な企業のHPやシステムにハッカーからの攻撃が増加している。情報セキュリティ管理には、一人一人の理解と行動が重要ですので、「心当たりのないメールは開かない」など、一層の取り組みを行う必要がある。
○家庭・地域との連携や、同窓会を含む地域からの支援はこの研究をする上でも大きな力となっている。これが県立伊丹の強みであることを忘れず、今後も「三方よし」の精神で果敢に発信して巻き込んで力を借りていくのがよい。
○大変に素晴らしい取り組み結果である。HPやブログを利用した情報発信はこれからの時代に必要不可欠だと考える。

